



R 2.10.31 撮影

## 【巻頭言】

## 学校行事を見直す

安達郡大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎

8月24日付福島民報の『あぶくま抄』に大変興味深いことが書かれていた。「民俗学者の柳田国男は、日本人の伝統的な世界観の一つとして『ハレとケ』を提唱した。ハレ(晴れ)は儀礼や祭り、年中行事などの『非日常』で、ケは普段の生活を表す。前者は、とかく脳裏に焼き付くものだ。(中略)。感染症に神経をとがらせ、ハレの日もない暮らしが日常になるのだけは、勘弁願いたい。」

この記事を読んで、コロナ禍で一変してしまった子どもたちの学校生活を想起した。これまでの教育活動を振り返ってみると、ハレとケのバランスがとられハレに当たる学校行事(特別活動)の充実によって学校は子どもたちの豊かな学びの場となっていたように思えてならない。しかし、前例の無い長期休業等によって、学校は一変してしまった。何よりも感染拡大防止対策と授業時数確保のために、教育課程の見直しを余儀なくされた。多くの校長先生方の脳裏をよぎったのは、時数に指定の無い学校行事の削減、精選ではなかろうか。確かにこの際削減すべき学校行事も多くみられる。

ところで、学校行事が学校行事等との名称で教育課程に位置づけられ、正規の授業として扱われるようになったのは、昭和33年の教育課程改訂時からである。「学校行事等は、各教科、道徳および特別教育活動のほかに、これらとあいまって小学校教育の目標を達成するために、学校が計画し実施する教育活動とし、児童の心身の健全な発達を図り、あわせて学校生活の充実と発展に資する。」とその目標が示されたのである。その後、昭和43年に改訂された学習指導要領において、特別教育活動と学校行事等を併せて特別活動となり学校教育の重要な一領域となって現在に至っている。

『教育ジャーナル』(学研教育みらい/9月31日発行)は、「がんばれ!公立校!!校長アンケート/学校行事編」の特集を7ページにわたって掲載している。その中から幾つかを紹介してみたい。

- 子どもたちに、学校生活の中での豊かな体験、心に残る体験をさせたい。行事等を通して、自己有用感や達成感や所属感を味わわせたい。
- 昨年度の卒業式が練習なしだったにもかかわらず、大きな問題も無く出来たことで、これまで余計に練習時間を取り過ぎていたことがわかった。内容と共に練習時間の見直しの必要性を強く感じた。
- 行事のねらいや必要最低限の目標、目指す資質・能力について、十分吟味することで、誰のための行事なのか、子どもを主体に見直すことができた。
- 職員同士で議論することの大切さを感じている。

長期休業中の5月15日、文科省から出された通知には「学校行事も含めた学校教育ならではの学びを大事にしながら教育を進めていくことが大切である」と明記され、「学校行事の重点化や準備時間の短縮」が示されている。今般、困難な状況の中、教育課程の見直しをする中で、校長先生方は、一つ一つの学校行事について、その意義を原点にかえて再確認し、様々に工夫に工夫をしながら実施することを通して、子どもたちにとって「ハレ(晴れ)」の場となったことと思われる。そこでは、子どもたちも先生方も、今までに無かった感動や成就感、達成感、連帯感を共有できたのではなかろうか。

フランス人の文化人類学者ヴァン＝ジェネップが考え出したと言われるものに「通過儀礼」がある。人間が生まれてから一生をおくる中で大切な節目のことで、誕生、七五三、入学、卒業、成人式等がこれに当たる。「通過儀礼」の考え方からも、学校行事の大切な意義を見いだすことができる。

コロナ禍にある今こそ、人と人とのかかわりを大切にする学校行事を見直すチャンスではなかろうか。

## 【小教研関係全般】

## With コロナ時代の新しい小教研の創造

福島県小学校教育研究会安達地区会長 安齋 宏之  
(本宮市立本宮まゆみ小学校長)

今年度の安達地区会の活動は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、県小教研の活動休止を受け、一部のコンクール等を除き、休止いたしました。第Ⅶ期研究の2年次、新学習指導要領全面実施の大切な年に、活動ができなかったことは残念でありませんが、活動休止で生まれた時間で、各学校の教育活動を少しでも充実させていただければ幸いです。

さて、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中ではありますが、県は、次年度の活動を第Ⅶ期の3年次として行っていくことを決めました。そこで、安達地区会も、県の方針を受け、次年度の活動を下記の方針に従って再開させていきたいと考えています。

＜令和3年度の安達地区会の活動方針＞

- 1 各種集會活動、各部会や授業を核とした研修において、コロナ禍の新しい研修の在り方を模索・実践・共有する。
- 2 小教研の活動を通して、授業改善を図り、子ども一人一人が未来社会の担い手として必要な力を身に付けられるようにする。
- 3 新型コロナウイルス感染症が、地区内において感染拡大した場合は、児童の安全・安心を最優先し、活動を縮小または中止する。

現在、事務局において上記方針の具体化に向けて検討を行っており、2月の校長会研修会には、「令和3年度 県小教研安達地区会の運営計画」として、ご提案できるよう進めて参りたいと考えています。

今、学校は新型コロナウイルス感染症のみならず、GIGAスクール構想に伴うタブレット端末の全児童への導入・活用など、1年前には想像だにできなかった課題に直面しています。学校だけでなく、社会そのものが大きく変わろうとしている中で、私たち教員がそのような課題に向き合っていくためには、研修を通して学び続けるしかありません。

一方、ベテラン教員の大量退職、それに相まった新採用の増加により、授業の質の低下が危惧されています。ベテラン教員から、若手教員へ指導技術の移転を図ったり、学校や市町村の垣根を越えた研修機会を確保したりしていくことが、これからの小教研に求められる役割ではないかと思えます。そのためにも、380名の会員の思いを的確に吸い上げ、会員のニーズに沿った小教研の運営に改善していかなければなりません。コロナ禍だからこそできる改革、しなければならない改革があるかと思えます。

「新しい小教研の創造」に向け、各校長先生方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



ペッパー君を活用したプログラミング教育



## 【特集テーマ】

## 強みを最大限に生かす責任

二本松市立原瀬小学校 大越 吾都臣<sup>あつおみ</sup>

経営学者、ピーター・ドラッカーの言葉に「部下の弱みに目を向けることは、間違っているばかりか無責任である。上司たるものは、組織に対して、部下一人ひとりの強みを可能なかぎり活かす責任がある。そしてそれ以上に、部下に対して、彼らの強みを最大限に生かす責任がある。(出典：「経営者の条件」)」とある。

今年度の研究主題に沿い、二本松方部が研究推進する研究課題は「目指す学校づくりのための活力ある組織・運営と校長の在り方」である。二本松方部の研究を担当させていただくことになり、まずは、各校の課題と取組みについてのアンケートを行った。そこから見えてくるものは、学校規模や地域によって様々な課題はあるものの、取組みとしてはどの校長先生方も基本的には同じであった。それは、学校や教職員のよさや強みを最大限に生かしながら課題解決に向けリーダーシップを発揮していることである。「よさ・強み」と言っても、簡単に見えてくるものではない。「見て、確かめ、評価して、生かす」をくり返し、組織に磨きをかけ、課題解決を図ろうとしている。その「彼らの強みを最大限に生かす責任」を全うしている校長先生方の姿を読み取ることができた。

コロナ禍での学校経営は、感染症対策や子どもたちの学習の保障、教職員の安全衛生管理やサービス倫理意識の高揚と、これまで以上に学校の組織力を生かすことが必要とされる。その組織力を高めるためには、校長として「よさ、強み」を見極める目と心を養い、それを最大限に生かす責任を背負っているという強い自覚をもつことが大切であると感じた。



令和2年度運動会代替え行事の様子

## 【特集テーマ】

## コロナ禍での教育活動の充実

二本松市立石井小学校 遠藤 春光

「パンデミック」この言葉を知識としては理解していたものの、現実の私たちの生活に降りかかってくるとは思ってもよらなかった。現在、教育活動が通常に戻りつつあり、子どもたちそして学校に活気が戻ってきたことは、油断はできないと感じつつも、うれしい限りである。

本校では、1学期に計画していた宿泊学習をぜひ実施したいと職員で知恵を出し合い、PTAとの話し合いを通して、宿泊を伴わない自然体験活動として行うことにこぎつけた。9月4日、午前学校プールでのカヌー体験と午後中庭での焼きそばづくりである。

カヌー体験では、東和公民館や県のカヌー協会の方の協力を得ながら実施した。子どもたちにとって初めての体験であり、また天候にも恵まれ、2時間の体験があつという間であった。はじめは怖がっていた子も、満面の笑みでオールを漕いで自在に進むまでになった。

焼きそばづくり(野外炊飯)では、「マッチ、次に私にやらせて。」と、順番を争いながらマッチに火をつける。上手にできる子は誰もいなかったが、そこには生き生きとした姿があった。これらは、休日にオイル缶でかまどを作ってくださったPTA役員の方、孫のために2時間以上も鉄板を磨いてくださったおじいちゃんと、地域の皆様からの支えがあったからこそできた活動であった。

「今まで食べた焼きそばで一番うまい。」と、頬張る笑顔に、手前味噌ではあるが意義ある体験であったと振り返るとともに、様々な立場の方々の想いや絆に感謝するばかりである。



## 【特集テーマ】

## こんな時だからこそ

大玉村立大山小学校 館脇 一弘

本来であれば、5月に予定されていた運動会。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、2学期に延期となりました。他にも1学期に予定されていた行事が延期となり、2学期に行事が集中しました。そして、2学期になっても「3密」を避けての実施が余儀なくされ、学習発表会も実施が危ぶまれていました。屋内での学習発表会を実施する場合、学年ごとの発表をその学年の保護者の方にご覧いただき、入れ替え制とする配慮が必要になります。しかし、できることなら子ども達の輝く姿をいつも子ども達を見守ってくださっている地域の皆様や地域の伝統芸能である「十二神楽」のご指導をいただいている保存会の皆様等、多くの方々に見ていただきたい。そして、子ども達にも他の学年の発表をみて「私は4年生になったらを神楽の舞をやってみたい」「5年生になったらカラーガードをやってみたい」「3年生になったら合唱部にはいりたい」「1・2年生はこんなこともできるようになったんだね」という思いをもって学校生活を送ってほしい。この思いを実現するには屋外での学習発表会しかない。屋外で実施するには大きなステージが必要になる。

村のコミュニティスクール委員会がこの悩みを相談したところ、「こんな時だからこそ」と委員の方々が立ち上がってくださり、校庭に大きなステージと看板、音響設備を準備してくださいました。このご協力のおかげで、運動会と学習発表会を融合した「Vamos Ohyama Deportes」が実現しました。ご協力してくださった皆様の思いは一つ「こんな時だからこそ、子ども達の笑顔が見たいから…」。



## 【趣味・随想】

## 「田地ヶ岡」に立つ塩沢小学校

二本松市立塩沢小学校 伊藤 比呂美

福島県立博物館の常設展タイムトンネルを通ると、福島県に人類が住み始めた旧石器時代から、米作りを始めた弥生時代までの「原始」の世界に入ります。そこには、縄文時代中頃の塩沢上原A遺跡住居跡をもとに作られた



竪穴式住居の復元模型（実物大）があります。その竪穴式住居跡は、油井川南岸舌状大地の周辺部から23軒発見され、舌状大地の中央部に位置する塩沢小学校の辺りは、当時広場的空間として利用されていたのではないかとされています。つまり、約四千年前の縄文時代にも、塩沢小学校の校地には人々が集まり、今と同じように子どもたちの遊ぶ声が響いていたのではないかと想像してしまいます。ここでは、土器や石器とともに「土鈴」も発見され、福島県立博物館に展示されていますが、その土鈴の形もサイズも、今、子どもたちがランドセルにつけている熊鈴によく似ています。



塩沢小学校校地は、田地ヶ岡館跡でもあります。14世紀中ごろの南北朝時代、奥州官領畠山高国が下向した際、この地に館を構え、四代満泰が霞ヶ城を築いて移るまでの約百年、畠山氏が住んでいたといわれています。

縄文時代から人々が集う場であった塩沢小学校校地。今は、小学校、幼稚園、住民センターが隣接し、小さな子どもから高齢者まで集まる場所になっています。これからも昔から続く地域のコミュニティーを大切に、笑顔と笑い声のあふれる広場的空間にしたいと思っています。



【新会員として】

伝統の力

二本松市立二本松北小学校 大内 雅之

「二本松市郭内一丁目1番地」

これは霞ヶ城のお膝元、二本松北小学校の住所である。住所を聞いただけで、「おっ」となるくらい、気持ちが引き締まる。「一丁目1番地」は政治的なことで使われることが多い言葉ではあるが、現実社会ではどんな場所なのか調べてみると、かなり有名な要所が出てくる。さらに、意味を調べてみると「最初に実施すべき最重要な事柄をたとえていう。最優先課題。」とある。いずれにせよ、その住所にあるものは「重要なもの・原点」ということは疑いようもなく、あわせて伝統の重み・歴史を感じる。



二本松の要地に立つ本校は、もうすぐ150周年を迎えようとしている。北小に来て、驚いたことがある。

伝統といえばそれまでであるが、子どもたちは上級生になればどんな時でも下級生の面倒を見る、6年生は朝、自主的に清掃する、下足はきれいに揃えて入れる等当たり前のこととして行っていることが多いのである。活動する理由など求めず、「先輩たちもしてきたことだから」の一言で活動できる子どもたち。すごい。誰かに指示されることなく、自然と行える活動があることはまさに「伝統の力」である。



今年度は、伝統を受け継ぐだけでなく、「創る」ことを目指して「+αの活動」に取り組んでいる。登校してきた6年生が後から来る子たちを元気に迎える「北小の朝を元気にしたい(隊)」、礼儀正しい気持ちのいいあいさつを目指す「語先後礼」等、もう少し、少しずつの意識で活動の幅、視野を広めている。

校長会の皆様、どうぞよろしくお願ひします。

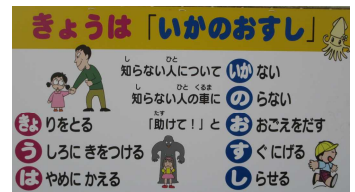
【新会員として】

安心・安全な教育環境

二本松市立油井小学校 大内 剛

大阪教育大附属池田小学校の乱入殺傷事件の発生から19年になった。報道によると、現在の校長は、事件当時から同校に勤務し続けている唯一の教師で、新人教師が着任すると校内を案内しながら事件を教え、命日が近付けば一緒に遺族の元を訪れる。「教訓を語り継ぐことが使命」と、校長室に飾られた写真立ての中の8人に、そう約束しているようだ。

安心・安全の対象は、「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3つと言われる。学校とし



ては、どれも大切であるが、保護者や地域の理解や協力が不可欠である。特に本校では、交通安全や防犯に関する地域の見守り隊の取組がありがたい。常時27名以上の方に交差点や横断歩道で安全を確保していただいている。

また、安全教育の取組では、「その道のプロ」をお呼びして、防犯教室を実施したり自転車乗りの実地訓練をしたりするなど、マンネリ化しないよう改善を加えている。

さらに安心・安全な教育環境づくりとして、職員玄関以外を原則(休み時間等を除く)施錠し、さすまた・催涙スプレー・



ネットランチャーを配置している。加えて、複数の防犯カメラを設置し、職員玄関には、人感センサー付きチャイムを新たに設置し、モニターで来客を確実に把握できるようにしている。

学校には、保護者に代わる代理監督責任が生じる。「児童の命を預かる学校」として、今後も「常に最悪を想定した対応」を基本として児童の安心・安全を確保していきたい。

## 【新会員として】

## 人の力を

二本松市立新殿小学校 紺野 真一

いわき市立川部小学校より二本松市立新殿小学校に参りました。2年ぶりの安達地区勤務です。

本来ならば勇んで着任するはずでしたが、この3・4・5月の私は、真夜中の大時化の海のうねりにもみくちやにされる小舟のごとし。しかし、安達地区の校長先生方の声が、灯台の光のように私を勇気づけてくださいました。本当にありがとうございました。

さて、かつて新殿小学校には300名を超える児童がいました。しかし今年度は児童数39名。安達地区でもトップクラス(?)の小規模校です。でも、児童が学びのときに見せる目の輝きに、学校規模による違いはありません。児童数が少ない分、児童一人一人の思いや願いが、ダイレクトに私に届いてきます。児童にはもちろん、保護者の皆様や地域の皆様にも、いろいろな場でコロナ渦の教育活動についてお話ししました。児童は厳しい環境の中でも今できることに全力で取り組んでいます。保護者の皆様・地域の皆様も学校の取組について理解してくださり、例年にも増して支援と協力をいただいています。



小規模校であっても、いえ小規模校だからこそ、顔を合わせ、目を見て話し合えるよさがあります。そしてそれが「人の力」を集め困難を乗り越えることにつながっていることを実感しています。

「子どもは地域の希望、そして私たちの誇り」  
校長先生方の様々なビジョンをうかがい、保護者・地域の後押しを受け、「この子どもたちは私たちが育てました。」と胸を張って言えるよう、学校経営力を磨いていきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

## 【新会員として】

## 今ここに立つ意味を考えながら

本宮市立岩根小学校 児山 秀典

二度目の奥会津勤務を終え、安達地区に戻りました。退職・現職の先輩の校長先生方はじめ、たくさんの先生方、市村教育委員会や地域の皆様からお声をかけていただき、改めて子どもたちや地域、そして教職員のために、覚悟をもって臨む気持ちを強くしました。

私はこれまで、安達地区で5校に勤務させていただきました。その中で私は、「組織を生かすこと」「アンテナ高く細やかに見取ること」「学校理解に向け丁寧に対応すること」など、ご指導いただいた校長先生方の経営や運営の実際を強く印象に残しています。それらを身近に学ぶことができたことは幸せなことでした。校長の意を体して教育活動を行っていた一人として、一丸となって教育課題の克服、教育目標の達成に向けて幹を太くしていく学校、そしてそれを束ねる指揮官に魅力を感じ、私はこの職を目指し、今ここにいます。

安達に戻ると知った時は、ご指導いただいた数々の校長先生方の顔が思い浮かび、とても嬉しかったです。もちろん不安と緊張感も大きかったです。前校長先生はじめ多くの先生方が全力で築き上げられた本校の風土にふれた数ヶ月、私は不安を払拭するたくさんの希望を見つけることができました。子どもたちのはつらつとした姿、教職員の強い絆、何かできることはないかとアンテナ高く学校に関心を寄せてくださる保護者、地域の方々、そしていつも強いサポートをくださる教育委員会の皆様に支えられ、楽しく充実した毎日を送らせていただいています。今年度からスタートしたコミュニティ・スクールも、まずは保護者の声が、地域の声が、学校運営に生かされている実感をもっていただけるよう、学校運営協議会長さんと連携しながら丁寧に進めていこうと考えています。福島県校長会安達支会のプライドをしっかりと胸に刻み、今ここに立つ意味を考えながら、職務に精励していきたいと思えますので、校長会の皆様からの忌憚のないご指導ご助言を賜りますようお願いいたします。